

はじめに

本書は、県内の漁業者や漁業関係者、そして広く高知県の水産業に興味を持つ一般の方々を対象としています。執筆にあたっては、日々の業務を通じて皆様から受ける問い合わせにできるだけ答えるような内容を目指しました。前回平成23年に改訂した形が好評であったため、本改訂版は前回のスタイルを踏襲し、新知見の追加やデータの更新によって内容の充実を図りました。また、近年の底びき網調査や市場調査からまとまった知見が得られたため、新たにアカムツ、キダイ、マエソ、ヒメジ、クマエビの5種を取り上げました。各章の文章は、執筆者の考えを伝えやすい各自のスタイルを尊重しました。そのため、項目によって形式が若干異なります。

本書で紹介している知見の多くは、きわめて地道な調査によって得られたものです。例えば、土佐湾の海洋環境に関する知見は、水産試験場の調査船土佐海洋丸による現場での海洋観測が基礎となります。魚介類の生態は、漁獲統計を収集し、市場へ出かけていっては魚の大きさを測る、といったさまざまな調査で得られたデータを基本としています。土佐湾の海水温が上昇傾向にあることや（本書10ページ）、マイワシが減った時に土佐湾が主要な産卵場として最後まで残る聖域であること（本書31ページ）は、10年、20年、30年という長い時間をかけて、水温や漁獲量、卵の数といった基礎データを現場で収集してきたからこそ言えることであり、他の方法で代替することはできません。

今後もこのような調査を続け、基礎データの解析から本県の水産業振興に貢献していくことが、水産試験場にとってもっとも重要な使命であると考えています。

執筆者一同

児玉 修（高知県水産試験場 漁業資源課長）

大河 俊之（高知県水産試験場 漁業資源課チーフ）

杉本 昌彦（高知県水産試験場 漁業資源課主任研究員）

稲葉 太郎（高知県水産試験場 漁業資源課主任研究員）

山下 慶太郎（高知県水産試験場 漁業資源課主任研究員）

猪原 亮（高知県水産試験場 漁業資源課主任研究員）

目 次

はじめに	i
目次	ii
I 高知県沖合域の海況	1
1. 北太平洋の海流	1
2. 黒潮	2
II 高知県沿岸域の海況	8
1. 水温	9
2. 土佐湾表面水温の長期変動	10
3. 塩分	12
4. 透明度	12
5. 流れ	13
6. 黒潮分枝流の豊後水道への流入様式	16
7. 高知県沿岸域で起こる急潮	16
III 主要魚種の資源生態	17
1. かつお・まぐろ類	
カツオ	18
太平洋クロマグロ	22
その他のまぐろ類	25
マルソウダ	29
2. 定置網・まき網・船びき網で漁獲される魚介類	
マイワシ	31
カタクチイワシ	33
ウルメイワシ	35
シラス	38
キビナゴ	41
マアジ	43
ゴマサバ	45
マサバ	48
ブリ	51
シイラ	53
スルメイカ	55

3. 延縄や釣で漁獲される魚種	
キンメダイ	57
ハガツオ	62
あまだい類	64
イサキ	67
アカムツ	70
キダイ	72
4. 底びき網や刺網で漁獲される魚介類	
ニギス	74
アオメエソ	76
ハモ	78
ヒラメ	81
えそ類	83
ヒメジ	85
クマエビ	87
クマエビ以外のくるまえび類	89
小えび類	91
5. その他の漁法で漁獲される魚介類	
アサリ	94
のこぎりがざみ類	96
その他かに類	97
資料Ⅲ－1 高知県で水揚げされるその他魚種の漁獲時期	98
資料Ⅲ－2 主要魚種別漁獲量の経年変化	112
資料Ⅲ－3 高知県の定置網（鈴）における魚種別水揚量と単価の推移	114
資料Ⅲ－4 高知県の漁海況に関する特異現象のリスト	122
IV 用語集	130
V 参考文献	133
おわりに	141